

倉敷紡績株式会社（クラボウ）

1. 会社の概要

- (1) 会 員 名：倉敷紡績株式会社（クラボウ）
- (2) 所属部会：関西化学部会第2分科会
- (3) 資 本 金：220億4,000万円
従業員数：4,313名（連結2021年3月末）
- (4) 事業内容（グループ）

① 繊維事業

- ・綿、合繊、その他素材の繊維製品（糸、織物、編物および二次製品）の製造・販売
- ・綿、合繊織編物の染色整理加工

② 化成品事業

- ・ポリウレタンフォーム、合成木材、無機建材、機能性フィルム、精密ろ過関連製品、高性能エンブラ製品、不織布および補強ネットの製造・加工・販売

③ 環境メカトロニクス事業

- ・エレクトロニクス関連製品の製造・販売・保守
- ・環境・エネルギー関連の各種プラント等の設計・製作・施工・販売、バイオマス発電事業
- ・バイオ関連製品の製造・販売
- ・工作機械等の製造・販売

④ 食品・サービス事業

- ・フリーズドライ食品の製造・販売
- ・ホテル、自動車教習所等の経営

⑤ 不動産事業

- ・不動産の賃貸

(5) 経営理念と社是

① 経営理念

私たちクラボウグループは、新しい価値の創造を通じてより良い未来社会づくりに貢献します。

② 社是：『同心戮力』

社内の和と団結を第一とし、若手の力を十二分に発揮できる環境づくりを目指して初代社長が社是として掲げた言葉。一人一人の働きや才能が異なっても、目的を達成するために、皆が心をつ一つにして、お互いに力を合わせて協力していこう、という意味です。儒家の始祖であり中国春秋時代の思想家、孔子の史書の代表的な注釈書「春秋左氏伝」にある一節。

(6) コーポレートロゴ



2. 知的財産部門の概要

(1) 組織上の位置及び名称

当社の知的財産部門は、知的財産部という名称で、研究・開発部門や総務部門とは別組織、独立した部になります。クラボウグループの知的財産を管理しています。

(2) 構成及び人員

現在、知的財産部の人員は7名で、当社の技術研究所や多くの開発部門が集まるクラボウ先進技術センター内に在籍しております。

(3) 沿革

2013年に、特許関連業務の効率化と知的財産管理の強化を目的として、事業部門及び本社総務課に分散していた知財業務を統合し、技術研究所内に知的財産課を発足しました。2019年に、各事業部門と協働・共創し、グループ事業活動へ知財戦略を積極的に展開させるため、業務組織を課から部としました。以降、知的財産部としてクラボウグループの知的財産の管理と戦略

を立案・推進しています。

3. わが社の知的財産活動

(1) 当社知財業務の特徴

当社は1888年の創立以来、祖業である繊維事業から業容を拡大し、今では自動車用内装材、断熱材、建材、半導体関連製品、情報機器システム製品、検査計測システム製品、環境装置、プラント関連製品、バイオメディカル製品、食品関連製品まで幅広い製品・事業展開を行っております。そのため、知的財産部が関与する技術分野も広範にわたり、これらすべての技術分野を少数のメンバーで対応するため、一人で複数の分野を担当していることが当社知的財産部の特徴です。また、技術分野ごとに、調査、知財発掘から権利化、契約まで一貫通貫で担当することで、研究開発・営業部門と発明初期から上市に至るまで戦略的な連携を図っています。ここ数年をみると、あらたな技術を習得する時間は増加の一途をたどっています。これからは、それぞれのメンバーが専門性の高い業務を遂行する一方で、情報や知識を共有し、組織的な業務へ転換するイノベーションも必要になっています。

第二の特徴は、メンバーの個性や強みを活かして業務を担当させている点です。交渉、海外契約、法務、調査などは、担当メンバーが事業部門や技術分野を超えて横断的に対応し、チームワークをとおして知識やスキルの共有に繋がっています。また、JIPAをはじめとする社外研修の受講を推奨・支援し、自主性を重んじて個性や能力を引き出せる環境の整備に努めています。

(2) IPランドスケープ（知財戦略）

知的財産部の発足後、経営層からは、より積極的な（目に見える）事業貢献が求められています。そのため、従来の権利化中心の業務に加えて、IPランドスケープを駆使した情報発信型の業務にも取り組んでいます。具体的には、いくつかの新規事業に対して、業界動向や競合分

析、自社保有技術分析等の結果を事業部と共有し、取るべき特許は何か？を明確にしたうえで、戦略的に特許網を構築する活動を行っています。また、共創パートナーの探索や新規市場の開拓支援等にもIPランドスケープを活用しています。このような活動が徐々に社内へ浸透してきており、最近では既存事業に対する分析依頼もいただくようになりました。当社におけるIPランドスケープの活用は、スタートしたばかりであり、まだ試行錯誤の段階ですが、各事業部門（特に営業部門）との連携を強化して、業容の強化・拡大にも取り組んでいます。

4. 今後の活動方針

クラボウグループでは現在、「面白いことやってやろう。」という取り組みを行っています。これは、初代社長、大原孝四郎が残した「やるべし、大いにやるべし」という言葉の原点に立ち返り、誰かをワクワクさせたいという気持ちを大切に、一人ひとりが面白がりながら取り組むことで、人々に喜んでもらえるもっと面白い会社になろうという活動です。知的財産部は、『『未来に向けた研究テーマ』や、『グローバルに挑戦する新規事業』を強力にバックアップ！知財情報をフル活用した知財戦略で、面白いイノベーションが湧き溢れるクラボウグループを目指します！』という面白がり宣言を掲げて、活動しています。

知的財産部が発足して3年、組織としてはまだまだ成長過程にあります。これまでの「特許出願・権利化重視型」の知財活動に加え、新規開発テーマ、新規用途や協業先を探索し、担当部門に発信する「情報発信型」の知財活動を推進し、継続して知財管理の体制強化に取り組んでまいります。

（原稿受領日 2021年4月30日）